



※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

- 1.第3回ローカルサミット～小田原・箱根・こゆるぎ
- 2.精神障害者グループホーム「ふるさとホーム新宿」開設
- 3.秋の紅葉狩り遠足～小石川後樂園に行きました！

1.第3回ローカルサミット～小田原・箱根・こゆるぎ

「もう一つの新しい<ものさし>を持つ。地域で人が繋がり、地域の資源を生かし、地域でお金をモノと想いが巡る、いのち甦る地域のあるべき姿を」というテーマのもと、第3回ローカルサミットが神奈川県小田原市で開催されました。ローカルサミットとは都市中心の既存の概念や常識から自由になり、この先の日本を地方発志民発想の知恵を集結して、人類・いのち・地球が直面する危機を乗り越えていこうとする行動の発信源です。全国から様々な分野で活動する人々が集まり討議をします。今年は海・山に囲まれ、歴史のある小田原が開催地として選ばれました。小田原は二宮尊徳ゆかりの地でもあります。尊徳公は無利息金融で互助の精神を具現化した人物です。地域の豊かな資源を生かし、先人の知恵を学びながら小田原発の未来への提言をまとめるのが今回の開催目的です。

10月22日から24日までの3日間に渡り、フィールドワークやグループセッションが行われました。フィールドワークは「海」「農林」「手仕事」「歴史」などの現場を訪れ、五感で小田原を感じる体験でした。その後のグループセッションは「ものづくり」「商流」「あきない」「金融」「食」「農林水産」「健康・医療・介護」「環境」「教育」「美と空間」「アジア」の11のテーマごとに分かれ、全国からの実践者による討議が行われました。NPO法人すまい・まちづくり支援機構の水田恵代表は「健康・医療・介護」の分野の実践者として討議に参加し、この分野で活躍する日本各地の実践者と共に白熱した議論を4時間に渡り繰り広げました。

それぞれの実践の場からの発言を通じて学んだことは、これからの日本は医療・看護・介護・家族の壁を一度取り払い、「当事者その人」を中心据えた上でそれぞれの専門性を生かしながら相互乗り入れし、独自の支援ネットワークを構築していくことが必要だということです。そこで重要になるのが地域の互助機能の再生です。人は専門的な支援だけで生活できるわけがありません。専門性はこの互助機能無くしては生きてこないということを強く感じました。この討議の場で地域の互助機能のことを「長屋」というキーワードで象徴しました。「長屋」の一員としての自分を仕事の場でも生活者としても意識していきたいと思いました。当会は、第2回からローカルサミットに参加しています。地域で孤立しがちな単身高齢者等の方々のために共済組合を運営しています。まだ小規模なものですが、組合員の方々の生活ニーズに合わせて今後より活動を広げていけるのではないかと期待しています。今回のローカルサミットでお会いした皆様のご意見を日々の活動に活かしていければと思います。(石田美枝)



2.精神障害者グループホーム「ふるさとホーム新宿」開設

2010年11月、新宿区に精神障害者グループホーム「ふるさとホーム新宿」を開設いたしました。当会では既に墨田区で同様のグループホームを3ユニット(合計15名)運営していますので今回の開設で4ユニット目になります。

場所は、多くの商店で賑わう大久保通りを少し入った場所にあり、3階建ての建物の1階と2階が「グループホーム・ケアホーム一体型」のグループホームになり、6名が入居可能です。1階は1室が交流ルームになっており色々な相談、語らいの場所になっており解放されており、3階には「新宿サポートセンター」を設置しており、同グループホームを含めて地域の高齢者等の相談活動などを行っています。

墨田区のグループホームを含めて、これまでに入所された方々や入所の相談があった方々の事情は様々です。統合失調症のように広く知られた症状を抱えた方や明確な病名がない方もいます。その多くは日夜問わず生活の支援を必要としています。職員がたえず一緒にいるわけではありませんが、時折不安や心配になったときにやわらかく支えてあげられるサポート体制があることが大切であると同時に、やはり近隣の方々のご理解が必要不可欠であると言えます。

刑務所における累犯障害者の存在が近年明るみになってきていますが、普段ご助言を頂いている保健師の方によると、最近ではそうした方々の出所後の相談も多いようです。また、アルコールや薬物による依存症に悩む方の相談も増えていると言います。新宿区にはそうした方々が利用できるグループホームなどがまだまだ不足しており、今回のグループホーム開設がその解決の一助となればと期待しています。

既に「ふるさとホーム新宿」への入所は始まっており、入居者の方は作業所やデイケアに通ったり友達と語らいながら落ち着いて暮らしているようです。それぞれが家庭や心身の悩みなどを抱えています。安心して暮らせる生活環境の中で少しずつでもそうした悩みから解放されていければと思います。

新宿区大久保という土地は直ぐ傍に歌舞伎町という歓楽街があり、雑多で多国籍な雰囲気をもっています。そのため様々な人を温かく受け入れてくれる土壌があるように感じます。こうした土地柄を生かしながら保健師や関係機関職員、地域の方々と協力して入居者の安定生活と自立に向けた支援をしていきたいと思えます。(渡邊雅文)

3.秋の紅葉狩り遠足～小石川後樂園に行きました！

地域生活支援センターでは毎月イベントを行っています。11月は紅葉の季節ということで、大江戸の深山幽谷といわれる小石川後樂園に行きました。この庭園は江戸時代初期、寛永6年(1629年)に水戸徳川家の祖である頼房がその中屋敷として造ったもので、二代藩主光圀の代に完成しました。都会の真ん中、しかも隣の東京ドームとの対比が面白い立地にあります。

当日は時折小雨が降るあいにくの天気でしたが、参加者は17名と欠席は少なく、職員と合わせ総勢23名で都バス・都営地下鉄を乗り継いで現地に向かいました。あらかじめ注文しておいた園内特製弁当を受け取り、団体休憩所で昼食を取りました。お弁当は大変美味しいと好評でした。その後は自由行動でそれぞれ自分のペースで園内を散策しました。紅葉は見ごろを迎え池の周りを美しく彩っています。園内は植生、造作物ともに変化に富み、ゆっくり見て回ると1時間はゆうにかかる見ごたえのあるものでした。集合後、記念撮影をして次の目的地の東京ドームシティに徒歩で移動しました。こちらは先程の庭園とは対照的で賑やかな場所です。皆さん自由行動でショッピングや遊園地をのぞいて楽しんでいました。参加した方の感想は、「こんなに楽しかったのは久しぶり。今までイベントに参加しなかったがもったいないことをした。」と喜んでくれました。日頃一人で行動することの多い方々ですが、このイベントではいろんな人と会話を交わし、いつもとは違う表情を見せてくれることが職員にとっても嬉しいことです。(石田美枝)





発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950
E-mail: hurusato@d5.dion.ne.jp
HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>